

深めるはずである。

そしてとりもなおさず、特に読者の研究対象の言語に地域的あるいは系統的に近い言語の参照文法を通読しておくことは、読者自身の文法記述においても大きな力となろう。また自身の文法記述の際に、近隣の言語で問題となっているテーマを意識しながら、研究を進めれば、完成した自身の文法は対照言語学・言語類型論・歴史言語学の観点から参照されやすくなると思われる。

なお、日本語話者にとってはエヴァンズ (2009)²¹が参照できることは大きい。これは講演録であるが、記述文法を書くにあたっての心構えがコンパクトに、かつバランスよくまとめられている。

5 おわりに

本稿では Aikhenvald 氏の最新刊の *The Art of Grammar* の概要をまとめ、その特長と問題点を指摘し、特にこれからフィールド言語学を行う人々、あるいは言語学を始めようとする人々に対する推奨文献を記述した。最後に、評者自身の自戒も込めて、以下の 2 点を今後の注意点として述べ、筆を擱く。

1 つは、フィールドワークで得られる経験は個別事象の集合体であることである。それゆえに、他のフィールド経験は傾聴に値し、大いに参考となるものの、そのまま別のフィールド調査に当てはめることはできない。フィールド言語学徒は 1 回 1 回の経験を積みながら、独自にフィールド言語学の方法論を紡ぎ上げるしかない。他のフィールド言語学徒との情報交換は積極的に行うべきであるし、フィールド言語学に関する文献はやはり読むべきである。しかし、それらの他者からもたらされた知識を金科玉条とすべきではない。

もう 1 点は、学術共通語として用いられる英語での論文執筆・文法執筆である。著者は数多くの言語の調査経験をもち、多くの言語を解する異能の言語学者である。ここで、本書の参考文献を見ていただきたい。大変残念なことに、本書では英語あるいは西欧語以外で書かれた文法書はほぼ無視されている²²。これを研究者の怠慢だと批判することはたやすい。しかし、どれほど多くの言語学徒が自分の知らない言語で書かれた文献を読むために、その言語を 1 から学習し始めるのか、相当に心もとない。つまり、英語以外で書くことは、畢竟、読者をかなり狭めることにつながる。

²¹ これに加えて、エヴァンズ (2013) は危機言語 (消滅の危機に瀕する言語) の問題を扱った書物であるが、特に第 10 章は危機言語を扱うフィールド言語学徒にとって重要な心構えが書かれている。

²² 著者は日本語・中国語・朝鮮語、その他アジアの諸言語にも強い関心を抱いているように見える。膨大な研究の蓄積のある日本語・中国語・朝鮮語に対しても、英語以外で書かれた文献 (当該言語で書かれた研究) は一切参照されていない。東南アジアの諸言語もラオ語が多く引用されているのは Enfield (2007) が本書の方針と親和性のある形で書かれた英語による参照文法だからである。タイ語も引用されているものの、東南アジアの大言語であるベトナム語やクメール語は一言も言及されていない。もちろん、本書のようなコンパクトな書籍ですべての言語に言及することは無理である。しかし、それ以上にベトナム語とクメール語に信頼に足る英語で書かれた参照文法が見当たらない (あるいは極めてまれである) ことのほうが問題となるのである。

母語で論文を執筆することはもちろん大切である。そして、それは母語の言語生活におけるかけがえのない営為である。ただし、ここでより重要なのは文法などの執筆に用いられる英語は、もはや文化の 1 要素ではないことである。論文の英語はコンピュータソフトや数式と同じように、完全に道具のようなものとしてみなされるものである^{23 24}。母語でも旺盛に研究活動・論文執筆を行いながら、特に重要な学術的貢献がなしえるものについて英語で成果を積極的に公開することは 21 世紀の言語学徒にとってもはや免れ得まい²⁵。

参考文献

- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2001. *Areal Diffusion and Genetic Inheritance — Problems in Comparative Linguistics —*. Oxford: Oxford University Press.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2003. *Studies in Evidentiality*. Amsterdam: John Benjamins.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2006a. *Grammars in Contact — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2006b. *Serial Verb Constructions — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2013. *Possession and Ownership — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R. M. W. Dixon. (eds.) 2014. *The Grammar of Knowledge — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.

²³ 英語非母語話者は英文の巧拙に拘泥してはならないとも評者は考える。まずは内容を正しく理解してもらえようように訓練するためには、英語の学術論文の執筆経験が豊富な練達の研究者に添削してもらおうのがよいだろう。英語話者なら誰でも英語論文の達人ではない。それは論文の言語が文化に根ざしたものではなく、道具に限りなく近いからだと思われる。ある種の英語論文の「型」のようなものを身に付ければ、余裕のない非母語話者は美文を書く必要はない。明快性・論理性にのみ、まずはこだわり続けるべきであろう。

²⁴ もちろん英語で成果を発表しただけで、読まれるわけではない。内容の充実を図ることが最も肝要である。それと同時に成果を公開する場所についても十分留意すべきだろう。口頭発表については大きな国際会議に挑戦すべきである。また論文発表については国内外の有力な雑誌に投稿するのも重要である。一方で、最近では Academia.edu のような論文をウェブ上で公開できる仕組みも整っている。また紙媒体での雑誌だけでなく、ウェブ上でアクセスできる学術誌も増えている。このような環境を有効に活用したい。

²⁵ 更に自戒を込めてこれに付け加えるならば、言語学徒が現地コミュニティへの学術的還元を行うために、現地の共通語による辞書・文法書・テキスト集などの作成にも積極的に取り組むべきであろう。辞書やテキスト集が現地コミュニティに歓迎される点については本書でも p.25 に書かれている。

また最近では技術の進展に伴い、紙媒体の辞書などに並行して、現地共通語と研究対象言語の音声つき対照語彙集やフレーズ集を作成し、現地コミュニティに配布することも貢献の 1 つと見なされるようである。Transcriber などは音声つき語彙集の作成に向いており、また SayMore や ELAN は動画とともに記録できるソフトとして用いられる。特に電子機器を用いることができるコミュニティにはこのような新しい記録方法も大いに歓迎されるだろう。

- Akmajian, Adrian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer and Robert M. Harnish. 2010. *Linguistics. — An Introduction to Language and Communication.* (Sixth Edition) Cambridge: The MIT Press.
- Backhouse, Anthony E. 2004. Inflected and Uninflected Adjectives in Japanese. In R. M. W. Dixon and Alexandra Y. Aikhenvald (eds.), *Adjective Classes — A Cross-linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Bouquiaux, Luc and Jacqueline M. C. Thomas. 1992. *Studying and Describing Unwritten Languages.* (English Translated Version) Dallas: Summer Institute of Linguistics.
- バーリング, ロビンズ (Robbins Burling). 1974. 『言語と文化』(高原脩・本名信行 訳) 京都: ミネルヴァ書房.
- Burling, Robbins. 1984. [2000.] *Learning a Field Language.* Prospect Heights: Waveland Press.
- キャットフォード, ジョン カニソン. (J.C. Catford). 2006. 『実践音声学入門』(竹林滋・設楽優子・内田洋子 訳) 東京: 大修館書店.
- Chelliah, Shobhana L. and Willem J. de Reuse. 2011. *Handbook of Descriptive Linguistic Fieldwork.* Oxford: Blackwell.
- Crystal, David. 2008. *A Dictionary of Linguistics & Phonetics. (Sixth Edition)* Oxford: Blackwell.
- Dixon, R. M. W. 2004. ‘Adjective classes’ in typological perspective. In R.M.W Dixon and Alexandra Aikhenvald (eds.), *Adjective Classes — A Cross-linguistic Typology —*. pp. 1-49. Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W. 2010a. *Basic Linguistic Theory. Vol.1: Methodology.* Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W. 2010b. *Basic Linguistic Theory. Vol.2: Grammatical Topics.* Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W. 2012. *Basic Linguistic Theory. Vol.3: Further Grammatical Topics.* Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald. 2000. *Changing Valency — Case studies in transitivity —*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald. (eds.) 2002. *Word — A Cross-Linguistic Typology —*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald. (eds.) 2004. *Adjective Classes — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald. (eds.) 2006. *Complementation — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald. (eds.) 2009. *The Semantics of Clause Linking — A Cross-Linguistic Typology —*. Oxford: Oxford University Press.
- Duranti, Alessandro. 1997. *Linguistic Anthropology.* Cambridge: Cambridge University Press.

- Enfield, Nick J. (ed.) 2002. *Ethnosyntax — Explorations in Grammar & Culture —*. Oxford: Oxford University Press.
- Enfield, Nick J. 2007. *A Grammar of Lao*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- エンフィールド, ニック J. (N. J. Enfield) 2015. 『やりとりの言語学—関係性思考がつなぐ記号認知文化—』(井出祥子監修, 横森大輔・梶丸岳・木本幸憲・遠藤智子 訳) 東京: 大修館書店.
- エヴァンズ, ニコラス (Nicholas Evans). 2009. 「記述されていない言語の文法を書くには」(稲垣和也 訳) 大西正幸・稲垣和也 (編) 『地球研言語記述論集 1』 pp. 1–34. 京都: 総合地球環境学研究所.
- エヴァンズ, ニコラス (Nicholas Evans). 2013. 『危機言語 —言語の消滅でわれわれは何を失うのか—』(大西正幸・長田俊樹・森若葉 訳) 京都: 京都大学学術出版会.
- Farmer, Ann K. and Richard A. Demers. 2010. *A Linguistics Workbook*. (Companion to *Linguistics*, Sixth Edition) Cambridge: The MIT Press.
- Foley, William A. 1997. *Anthropological Linguistics: An Introduction*. Malden: Blackwell.
- Fromkin, Victoria A. (ed.) 2000. *Linguistics: An Introduction to Linguistic Theory*. Malden: Blackwell.
- Gippert, Jost, Nikolaus P. Himmelmann and Ulrike Mosel. (eds.) 2006. *Essentials of Language Documentation*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- 林徹. 2004. 「外国語研究と質問調査」『日本語学 —現代の質問調査法—』(2004年6月臨時増刊号) pp. 55–63. 東京: 明治書院.
- 早田輝洋. 1999. 『音調のタイポロジー』東京: 大修館書店.
- ハイムズ, デル (Dell Hymes). 1979. 『ことばの民族誌 —社会言語学の基礎—』(唐須教光 訳) 東京: 紀伊國屋書店.
- 城生佰太郎・福盛貴弘・斎藤純男 (編). 2011. 『音声学基本事典』東京: 勉誠出版.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編). 1996. 『言語学大辞典 第6巻 (術語編)』東京: 三省堂.
- 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2004. 『言語学 第2版』東京: 東京大学出版会.
- Katamba, Francis. 1989. *An Introduction to Phonology*. London: Longman.
- Ladefoged, Peter and Keith Johnson. 2011. *A Course in Phonetics*. (6th edition, International Edition) Boston: Wadsworth.
- Ladefoged, Peter and Keith Johnson. 2015. *A Course in Phonetics*. (7th edition) Boston: Wadsworth.
- 宮地裕・甲斐睦朗 (監). 2010. 『日本語学』(特集: フィールド言語学の第一歩) 2010年10月号. 東京: 明治書院.
- 宮地裕・甲斐睦朗 (監). 2011. 『日本語学』(特集: フィールド言語学と文法) 2011年5月号. 東京: 明治書院.
- 宮岡伯人 (編). 1996. 『言語人類学を学ぶ人のために』京都: 世界思想社.
- Newman, Paul and Martha Ratliff. 2001. *Linguistic Fieldwork*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Odden, David. 2005. *Introducing Phonology*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ottenheimer, Harriet J. 2006. *The Anthropology of Language — An Introduction to Linguistic Anthropology: Workbook, Reader —*. Belmont: Wadsworth.
- Payne, Thomas E. 1997. *Describing Morphosyntax*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Payne, Thomas E. 2006. *Exploring Language Structure: A Student's Guide*. Cambridge: Cambridge University Press.
- プラム, ジェフリー K・ウィリアム A. ラデュサー (Geoffrey K. Pullum and William A. Ladusaw) 2003. 『世界音声記号辞典』(土田滋・福井玲・中川裕 訳) 東京: 三省堂.
- Roca, Iggy and Wyn Johnson. 1999a. *A Course in Phonology*. Oxford: Blackwell.
- Roca, Iggy and Wyn Johnson. 1999b. *A Workbook in Phonology*. Oxford: Blackwell.
- 斎藤純男. 2009. 『日本語音声学入門 [改訂版]』東京: 三省堂.
- 斎藤純男. 2010. 『言語学入門』東京: 三省堂.
- 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編). 2015. 『明解言語学辞典』東京: 三省堂.
- 柴谷方良・影山太郎・田守育啓 (編). 1981. 『言語の構造: 理論と分析 音声・音韻編』東京: くろしお出版.
- Shopen, Timothy. (ed.) 1985a. *Language typology and syntactic description I: Clause structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shopen, Timothy. (ed.) 1985b. *Language typology and syntactic description II: Complex constructions*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shopen, Timothy. (ed.) 1985c. *Language typology and syntactic description III: Grammatical categories and the lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shopen, Timothy. (ed.) 2007a. *Language Typology and Syntactic Description (Second Edition) Volume I: Clause Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shopen, Timothy. (ed.) 2007b. *Language Typology and Syntactic Description (Second Edition) Volume II: Complex Constructions*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shopen, Timothy. (ed.) 2007c. *Language Typology and Syntactic Description (Second Edition) Volume III: Grammatical Categories and the Lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Silva, Cácio and Elisângela Silva. 2012. *A Língua dos Yuhupdeh: Introdução Etnolinguística, Dicionário Yuhup-Português e Glossário Semântico-Gramatical*. São Gabriel da Cachoeira: Pró-Amazonia.
- 東京大学言語情報科学専攻 (編). 2011. 『言語科学の世界へ— ことばの不思議を体験する 45 題』東京: 東京大学出版会.
- 唐須教光 (編). 2008. 『開放系言語学への招待 — 文化・認知・コミュニケーション』東京: 慶應義塾大学出版会.
- 土田滋. 1978. 「外国語の現地調査を志す人のために」『月刊言語』(1978年9月号. 特集: 野

外調査の言語学) pp. 30–36. 東京: 大修館書店.

角田太作. 2010. 『世界の言語と日本語 (改訂版) —言語類型論から見た日本語—』 東京: くろしお出版.

上野善道. 2011. 「アクセント」城生佰太郎・福盛貴弘・斎藤純男 (編) 『音声学基本事典』 pp. 305–311. 東京: 勉誠出版.

補足

なお、本書中で評者が発見した誤植、あるいは修正すべきではないかと思われる箇所について以下の表に示しておく (該当箇所は太字にする)。

		誤 (修正すべき箇所)	正 (好ましい表現)
p.5	9 行目	<i>nO</i>	<i>nɔ</i>
p.68	4 行目	/botl/	/botɫ/
p.68	4 行目	/sædn/	/sædn̩/
p.72	4 行目	the bilabial trill B	the bilabial trill B
p.74	8 行目	-ŋ	/ŋ/
p.83	15 行目	Salish, families,	Salish families,
p.83	15 行目	predicates, and	predicates and
p.226	下から 15 行目	In Tschangla	In Tshangla
p.243	5 行目	on Tschangla	on Tshangla
p.293	下から 5 行目	Enfield (2004a)	Enfield (2002)
p.293	最終行	Enfield (2004a: 3)	Enfield (2002: 3)
p.342	2 行目	Enfield, Nicholas J. (ed.) 2004.	Enfield, Nicholas J. (ed.) 2002.
p.342	4 行目	Enfield, Nicholas J. 2004a.	Enfield, Nicholas J. 2002.
p.342	5 行目	Enfield, Nicholas J. 2004b.	Enfield, Nicholas J. 2004.

謝辞

本稿作成時には、倉部慶太氏・藤原敬介氏・古本真氏に草稿をお読みいただき、ご指摘・ご助言を大いに参考にしました。記して感謝申し上げます。

Abstract

Review: Alexandra Y. Aikhenvald *The Art of Grammar — A Practical Guide*— Oxford: Oxford University Press, 2015, xxiii + 380pp.

Norihiko HAYASHI

Kobe City University of Foreign Studies

This is to review a recent publication of field linguistics entitled as *The Art of Grammar* by Alexandra Aikhenvald. This book is a truly informative and substantial guide for field linguists to illustrate from “how to prepare for field trips” to “how to write and read a reference grammar,” which includes a kind of typological summaries of phonological and morpho-syntactic features in the world languages and warnings for language descriptions. This book helps the beginners of linguistic fieldwork to understand what to do in the field and what to write in a reference grammar, though if they do not know the fundamentals of linguistics they should complement them by reading other materials suggested in this review. For professional linguists (or Ph.D students), this book is useful as a checklist for linguistic fieldwork and analyses.

Keywords: field linguistics, reference grammar, field method, grammar description